



令和元年7月

<7月の予定>

- ◎稽古時間: 木曜日・・・17:00～19:00 (稽古場所は針ヶ谷小学校体育館)
※土曜日の稽古場所は駒場体育館です。
土曜日・・・1部 13:00～15:00 (初心者対象)
土曜日・・・2部 15:00～17:00
- 7日(日) 第1回浦和少年強化練習会 午前 ※対象者のみ(市立浦和高校)
 - 13日(土) 竹刀の手入れと稽古着、袴のたたみ方講習会 13:00～15:00
 - 15日(月・祝) 塚越剣友会交流会(蕨東小学校体育館) 9:00～13:00
 - 18日(木) 子どものためのスコアつけ教室① 17:00～19:00
 - 20日(土) 合宿説明会(駒場体育館 2F会議室) 15:15～16:15
 - 25日(木) 子どものためのスコアつけ教室② 17:00～19:00

<8月の予定>

- ◎稽古時間: 木曜日・・・17:00～19:00 (稽古場所は針ヶ谷小学校体育館)
※土曜日の稽古場所は駒場体育館です。
土曜日・・・1部 13:00～15:00 (初心者対象)
土曜日・・・2部 15:00～17:00
- 3日(土)～5日(月) 夏合宿(河口湖 月山荘)
 - 12日(月・祝) 浦和区ブロック合同稽古会(サイデン化学アリーナ)
 - 15日(木) お盆休み
 - 24日(土) 令和元年度前期昇級審査会
第2回浦和少年強化練習会 午前 ※対象者のみ(尾間木中学校)
 - 25日(日) OB合同稽古会(大宮武道館剣道場) 13:00～17:00
 - 31日(土) 一、二、三級審査 合同稽古会(サイデン化学アリーナ)

<9月の予定>

- ◎稽古時間: 木曜日・・・17:00～19:00 (稽古場所は針ヶ谷小学校体育館)
※土曜日の稽古場所は駒場体育館です。
土曜日・・・1部 13:00～15:00 (初心者対象)
土曜日・・・2部 15:00～17:00
- 7日(土) お父さん・お母さんのためのスコアつけ教室 14:00～17:00
 - 22日(日) さいたま市民剣道大会前日準備
 - 23日(月・祝) さいたま市民剣道大会(サイデン化学アリーナ)
 - 未定 合宿慰労会、新入会員歓迎会

こまけんだよりは公式サイトでもご覧いただけます。
是非カラーでもお楽しみください♪ <https://komaken.c.lub>





本荘先生からのお言葉

梅雨明けが待たれる今日この頃ですが、明けたらますます暑くなるので、それはそれでしんどいなあとと思います。よく食べよく寝てみんなと仲良くするよう心掛け、暑さに負けない、暑さと向き合える心と体をつくり、しっかり稽古していきましょう。



さて、悲しいお話からとなりますが、本会の相談役である菅原慶一先生(教士七段)が6月14日午後ご逝去されました。先生は長年にわたって駒場剣友会の師範としてご指導いただき、数多くの剣士を育成されました。ご病気等でここ5年ほどは稽古に來られてなかったため、今の小学生会員はご指導を受けていないと思います。先生を偲び、どんな先生であったかを知ってもらう意味でも、少し先生との思い出を書かせていただきます。

私が菅原先生と最初に出会ったのは中学生の時です。先生は本太中学校のコーチをされていて、私は岸中の剣道部員でした。菅原先生と岸中の顧問とが仲が良かったようで、よく練習試合をやらせてもらいました。市内の同期の仲間の中でも本中生と仲が良かったことを覚えています。私の年齢を考えると、あの頃の菅原先生は今の私より若かったわけですが、その後のお付き合いが長かったため、あまりその時の姿がイメージできません。先生は浦和剣道連盟でずっとご活躍をされていたから、大学時代などにも稽古をお願いしたことがあったのかもしれませんが。

私が中学校の教員時代、平成10年頃だったでしょうか、県大会の会場で先生をお見かけしました。本中生が1人個人戦に出場していて、サブアリーナで先生が剣道具をつけてその稽古相手をされていました。普通、顧問やコーチが県大会会場で着替えて中学生のアップの相手をするなどありません。「相変わらず熱心な指導をいらっしゃる」と感じたことを覚えております。それから2、3年たち、我が子の剣道入門を考えたとき、駒剣にお世話になることに決めた大きな要因が菅原先生の存在でした。その後10年間くらいでしょうか、土曜日の修道館などでよく稽古をつけていただきました。

20年の歳月が経ってまた稽古をしていただける、剣道の素晴らしさだと思います。

丸山先生のと、駒剣の会長を継ぐのは本来であれば菅原先生でした。たまたまその時期、先生が腰を痛めてしまい、少しの期間駒剣に來られない状況となり、若い人から選出するとなった経緯がありました。そんなこともあり、丸山先生が亡くなられてからは何かあると先生にご相談させていただきました。先生のお宅にもおじゃまし色々とお話をさせてもいただきました。お誕生日などに駒剣の子どもたちを連れていこうとしたいそう喜ばれました。本物の日本刀を見せてもらいに子どもたちと大勢で押しかけたこともありました。

平成21年には、先生が埼玉県剣道連盟から「剣道功労賞」を受賞され、パインズホテルでお祝いをしたことも思い出されます。奥様とお二人で出席してくださり、終始にごやかに楽しまれていたご様子でした。ここ何年かは膝を悪くされ歩くのが困難になり、「また駒場に行きたいなあ」が口癖でした。それが叶わず残念です。



先生の座右の銘は「継続は力なり」で、何事も続けることが大切だよ、と常々お話しされていました。また、試合においては「強気」が大事であると子どもたちに話されていました。大会の前日、先生が亡くなった翌日になりますが、私から先生の言葉「強気で」を皆さんに伝えましたよね。亡くなったのを知ったのは後日ですので偶然ですが、何か先生のお導きがあったのかもしれませんが。菅原先生が駒場剣友会に注いでくださった愛情や思いを受け継ぎ、これからも稽古していきたいと思います。先生、今までありがとうございました。安らかにやすみください。 合掌

6月16日(日)に行われた「さいたま市浦和剣道大会」ですが、いかがだったでしょうか。個々には、初の対外試合で3位になった廣江君や入賞まではいかなかったが良い試合をした選手も見られました。ただ、駒剣全体としては団体戦、個人戦ともに物足りなさを感じました。「負けっぷりが悪い」というか、思い切りが欠けていたような気がしました。日頃の稽古の様子と比べると、まだまだ会として「強気」の表れた試合ぶりではありませんでした。一人ひとり試合を振り返って、次はどうしたいか、そのためには何をしたらよいか、考えてみてください。良いところはみんな持っています。伸びてきているところもあります。それを試合で表せるようにしましょう。

剣道教室が終了し、新しい仲間が駒剣に加入してくれます。木曜日の稽古は針ヶ谷小学校をお借りして行くようにもなりました。始めた時どのように教えてもらったかを思い出しながら、一つひとつの所作を正しく、丁寧にするように心がけましょう。そして、感謝の気持ちをもって行動してください。

菅原慶一先生を偲んで

菅原先生を偲んで

尾島 寿子

平成9年4月に初めて菅原先生とお会いしました。駒場剣友会の木曜日の指導担当をお受けし始めて伺った駒場体育館の剣道場での事です。当時は丸山先生、坂上先生、山崎先生(現在福岡に在住)、杉山先生もいらっしゃいました。菅原先生は旧浦和市の剣道教室の後の受け皿として駒場剣友会を発足されたメンバーのお一人と聞いています。その土台があって数百人もの駒場剣士の育成が現在も継続しています。

菅原先生のお声はとても優しく心地よく、礼式の時は30分間のお話をいただく時もありました。「全国大会」「本太中」がキーフレーズで、菅原先生の座名の銘「継続は力なり」の意味がその中に鑿ちりばめられていました。子供たちは正座し、黙って動かずにお話を聞く姿は本当に立派でした。集中力があり、先生への礼が心に備わっているから出来る事です。菅原先生は理合の剣道で、上を攻めて下、下を攻めて上、表を攻めて裏など巧みな技を出されていました。楽しいお稽古の思い出が沢山あります。合宿にも参加された事など懐かしく思い出されます。

腰の手術をされてからも車椅子で来館くださった菅原先生。子供たちの事が大好きな菅原先生。いつでも駒場剣友会の事が分かる様に常に菅原先生にお会いし、会の報告をし、様子を窺ってくださった本荘会長。剣道には「師弟」という言葉がありますが師範と弟子の絆を強く感じます。菅原先生が駒場剣友会に残してくださった多くのお言葉や心や事柄を大事に継承してゆきます。菅原先生の書の手拭い「継続は力なり」は子供たちに見せ意味を問い、語り続けてゆきます。菅原先生との出会いと思い出と教えに感謝致します。先生お元気で。ありがとうございました。

最後に…菅原先生のお通夜の日、駒場剣友会の剣士たちは声が菅原先生に届く様に一生懸命稽古をしました。お通夜に参列出来ないけれど心は声は届いたかと思います。

思い出

山田 節男

18日の朝、出勤前に家内と食事をしながら、先生の亡くなったことを話していました。「ゆうべ連絡があって、14日の日に菅原先生が亡くなったそうだ。88歳だったそうだよ。」「そうなの、御病気は？」「長くなにか病気ではあったと思うけど、老衰となっていたよ。」「そう、あなたのお父さんが生きていれば94歳よ。みなさんいなくなってしまうわね。三羽ガラスはどなたでしたっけ？」

「三羽ガラスは、うちのおやじと丸山先生と武井先生だよ。菅原先生は三羽ガラスじゃないけどおやじや丸山先生と一緒にの福島での剣道合宿の写真があったろ」

こんなどうでもいい話をしながらそのままぼんやりいろんなことを思い出していました。最初は、私が大学生のころですから、今から40年以上前のころ、父を通してのお付き合いがありました。その後、私が駒剣で剣道を再開した15年ほど前からまたお付き合いをさせていただいたわけです。

余談ですが、先ほどの三羽ガラスとは、駒剣の会長をされていた丸山先生から聞いた話ですが、浦和の剣道連盟で私の父と親しい方が外から呼ばれていた呼び名のことだそうです。

いずれにしても菅原先生も壮年であったころの父と親しかった方のおひとりでした。私はいったい丸山先生と菅原先生といくつ年が違うのか考えたこともありませんでしたし、菅原先生が父といくつ違っていたのかもよくわからずにいました。

私が駒剣で剣道を再開した時は、菅原先生もとても喜んで下さいました。

菅原先生はまだお元気でしたから、ご自身で稽古をつけて下さる中で自分の稽古の仕方、子どもたちへの教え方について実地で教えていただきました。先生はねりんピックに代表で出場されるような試合に強い方でしたから、攻めていく時の細かい足の使い方のようなことも教えていただきましたし、精神面での「懸待一致」のような心構えもよくお話に出ました。そしてときどき、私が剣道から離れていた時期の私の知らない父との思い出話をうれしそうに話してくださいました

また、先生の口から小沢丘(オザワ タカシ)先生のお話が出ることもありましたが、どこで教えを受けられたのかははっきり聞いていなかったのを今になって残念に思いました。小沢先生が若いころ福島で教員をされたこともあるからその時かなとぼんやりと思っていましたが、よく考えてみると年代があわないなと思い、すると、どこで受けられたのか、どんな教えだったのかもとお話を聞いておけばと今更ながら残念に思いました。小沢先生のしっかりした教えを受けたであろうことは、丸山先生もお元気でいたころの駒剣の稽古の後にこんな会話をしていたのを横で聞いたこともあったからです。

「昨日、片付けをしていたら、小沢丘(オザワ キュウ)さんの手ぬぐいがでてきたよ。俺はもう使わないから。小沢先生といえば菅原先生だからな、持っていかなきゃと思って。」と言って丸山先生は、小沢先生が揮毫された手ぬぐいを菅原先生に渡されていました。おそらくいろいろな思い出があったのだろうと思います

ずっと後に私が六段審査合格の報告を電話でした時は昇段を大変喜んで下さり、すぐに次の段の受験の時期がくるからその調子で続けて励むようにと元気な声で言っていただきました。その頃は、もう稽古にはあまり顔を出されていませんでしたが、喜んでいただいたことがうれしかったこととしっかりした声であったことも懐かしく思い出しました。

菅原先生が亡くなったことは、父と親しかった年代の方たちがほとんどいなくなったことの寂しさ、年月の移り変わり自分も年を重ねていることをあらためてははっきりと感じることになりました。もっといろいろなことをよくうかがっておけばよかったと後悔しています。

今、駒剣で私が送り出した卒業生が訪ねてきてくれること、さらには私が駒剣に入る前の卒業生と稽古をすることの喜びは、私が剣道を再開した時に菅原先生が感じてくださった喜びに通じるものだと思います。

あらためて、先生の教えを思い出し、続けられる限り、駒剣で稽古に励んでいきたいと思いました。菅原先生の信念であった「継続は力なり」を実践していきたいと思います。

ご冥福をお祈りします。

*小沢丘先生:明治33年生、埼玉県羽生市の出身。範士九段。東京高等師範卒。全日本剣道連盟副会長、埼玉県剣道連盟会長他いろいろな要職に就かれた。教員として高校大学でも教えられ、その後警察での剣道指導もされる。東京の中野と埼玉でご自身の道場で少年の指導にもあたられ、剣道に関する著書も多数ある。私が小中学生の頃、当時あった浦和の武道館にも時々稽古にいっしょに、私もかからせていただいたこともありました。

菅原慶一先生を偲んで

木村 裕之

菅原先生に初めてお会い致したのは1997年11月でした。私の息子(直樹)が駒場剣友会の後期の剣道教室に入れて頂きましたので、見学に行った際にご挨拶させて頂きました。その後1998年4月に息子と共に駒剣に入会させて頂き、私も20年ぶりに竹刀を握ることになりまして、完全に忘れていた竹刀の握り方・蹲踞の仕方・構えなど剣道の基本を丁寧に教えて頂きましたのが昨日のことのようです。

菅原先生はご高齢になられても、シニアの国体にあたる『ねりんピック』に埼玉県代表として出場されるなど試合に強い剣道家でおられました。気合、気迫を大事にされていて、稽古をお願いすると最後は常にかかり稽古となり苦しい時間でしたが、そのお陰で剣道の楽しさを味わうことが出来るようになりました。感謝で一杯です。

菅原先生との思い出は、稽古、合宿、宴席など数えきれないほど浮かんで参りますが、特に印象に残っていますのが、2001年5月に菅原先生が七段審査に合格された時のことです。菅原先生は、ご自分は試合剣道なのでこれが直るまで七段は受験しないと話しされておられまして、私が剣道を再開した当時は昇段審査を受験されておられませんでした。2000年の後半くらいに、菅原先生ご自身でも我慢ができるようになってきたとお話しされるようになり、審査に臨まれて見事に合格されました。70歳での素晴らしい挑戦で、感動を頂きました。

菅原先生のご昇段お祝いの会を、翌月2001年6月に開かせて頂きまして、先生の昔の剣道の教え子が多く集まって来られました。その時お聞きしましたエピソードには『上皇陛下(平成天皇)に剣道をご指導された経験がおありになる』『本太中学校で外部指導されていた時に、関東大会に個人で出場する選手(金子選手)に付き添われて一人防具を持参して、選手のアップのお相手をされる』など、菅原先生のお人柄、生き様が滲み出ておりまして、とても印象的で今でも鮮明に記憶致しております。

そして、普段の菅原先生は、稽古の時の気迫とは別人で、穏やかでカラオケが大好きな優しい愛される先生でもありました。

菅原先生、生前の温かいご指導に心より感謝申し上げます。安らかに永遠の眠りにつかれる事をお祈りいたします。有難うございました。

新ジャイアのはなうた♪



よっ！ みんな、元気か？

毎日、はっきりしない天気でやんなっちゃうな。防具もかわかないし、ちょっと手入れをサボるとくさくなっちゃうし。

みんなの防具は大丈夫かな？ カビなんか生えてないよな？ ひょっとして、キノコが生えていたりして。そしたら、動画として YOUTUBE にあげるとヒットするかもな？

冗談はこのくらいにしてと。

ところでこの前の試合、どうだったかな？

このどうだったかなっていうのは試合に勝てたとか、負けたとかということだけじゃなくて、自分で納得のいく試合ができたかな？ 納得(なっとく)っていてもよく分からないかもしれないね。自分の試合を考えて「よく、がんばったな。えらかったな。」と思えたら、納得する試合ができたっていいと思うぞ。

逆に、なんだか物足りないとか、あっという間に終わっちゃって何も感じないとか、そういう人は、自分の力を十分に出不せしていないということだと思うので、次は、もう少し気を引き締めて試合にのぞもうな。試合で大切なことは、勝つことより、試合を経験して、何を感じたか、何をつかんだかってことなんだ。えっ？ 試合のこと、あんまり覚えてないって。そいつはまずいぞ。今からでも、どんな試合だったか、思い出してみてくださいよな。何か気づくことがあるかもな。

ところで、この間の稽古で、お母さん剣士とみんなが一本勝負したことがあったけど、覚えているかな。みんなは、駒剣の中にいるからわからないかも知れないけど、お母さん剣士が多いことは駒剣のいいところのひとつだぞ。お母さん剣士たちと稽古ができることは、すごくいいことだし、なかなか経験できないことなんだぞ。お母さん剣士は力を抜かないで一生懸命稽古するし、そのおかげでみんなも一生懸命稽古して上達するし、良いライバルになっていたりするし。こんなこと、ほかの剣友会じゃあまりないことだと思ふぞ。だから、回り稽古でお母さん剣士とあたってるときは、一生懸命剣道しような。そして、できればお母さん剣士から一本取ってくれよな。

もうすぐ夏休み、そして、楽しい夏合宿が来るな。冬の寒稽古もつらいけど、暑い夏の稽古もつらいよな。暑中稽古とったり、土用稽古とったりするけど、こういう厳しい稽古を乗り越えたら、グンと上達するぞ。面を取りたいと思っても、あと一本、あとひとりがんばろう。そうすると、もっともっと剣道が楽しくなるぞ。夏合宿、一緒にがんばろうな。

じゃあ、またな！

太郎の百錬自得



第64回

雨が続きますね。湿気が多いときの稽古はどうも苦手ですから、早く梅雨明けしてほしいものです。

さて、先日の浦和剣道大会や月例試合を見ていて感じたこと、を今回は書きたいと思います。まず、数ヶ月前と比べたら、みんな技にキレが出てきているし、伸びているなあと感じます。そのうえで、もっと気をつけてもらいたいと思うこと、大きくふたつ取り上げます。

一番は、先をかける、ということです。

先をかける、ということをも文字で説明するのは難しいのですが、簡単に表現すると、いつでもいける状態を作る、ということです。姿勢、気持ち、構え、それぞれが整っていて、すぐに技を出せる状態、相手の動きに対応できる状態、を相手より早く作る、ということだと思ってください。

気持ちの面、「さあ、いくぞ。」と思った時点で準備ができていません。いつも「さあ、いくぞ。」の後の状態でなければいけません。また、打とうとするときに、左足を継いだりしているようでは、準備ができていません。最小限の動きで打突ができる状態であればいけません。

この準備が遅いために、相手に攻め込まれる、ということがとても多かったです。

そして、瞬間を逃さない、ということです。

ここで考えてほしい打つべき瞬間は、相手の出ばな、相手の起こり、です。出ばな、相手の起こりで、打てるタイミングは本当に一瞬です。

その一瞬の機会を作り、確実に捉えるために攻め乗り崩しがあるわけですが、今回それは置いておきましょう。ここではすばやく技を出せるかどうかと思ってください。

3、4年生は特に技が大きく強くて、そこは良いのです。が、一本出すのに時間がかかるので、打つべき瞬間を逃しています。技は大強速軽といいますが、出ばなを打つには、後半の速軽が重要です。

速軽の技が出ないので、特に出ばなで打つ瞬間を逃していることが多かったです。

すばやく打つには、左足を継がず、竹刀は正中線を外さず、振り幅は小さく、手の内を使って、しっかり踏み込んで打突することが必要です。この打突の仕方、先日木曜の稽古で紹介しました。多少打ちは軽くなるでしょうが、打突部位をすばやく捉える感覚を覚えることも重要ですから、ぜひ実践してみてください。

基本打ち、打ち込みでしっかり大きく強く打つ稽古しているからこそ、言えることです。基本は大きく強く！忘れないようにしましょう。

それでは、また次回。

第35回 さいたま市浦和剣道大会

令和元年6月16日(日)

@大宮武道館

竹中キャプテン率いる駒場剣友会の初試合となった今大会。

個人戦では、初出場の3年生廣江くんが3位入賞しました。団体戦はA、Bチームとも初戦敗退という結果でしたが、それぞれが日頃の稽古の成果を出すべく健闘しました。今大会を通して気付いた自らの課題に向かって、これからの稽古もがんばりましょう！

【個人戦 結果】

3年生

廣江くん 3位おめでとう！浦和剣道連盟強化選手

- ② — 木原(浦和東警察) ... 相手共に手数が出ていい試合でした。初試合、がんばりました。
- ② × — × 延長 長谷川(一心館) ... 何本も胴が決まらなかった。練習して次回に活かしてください。
- ② × 竹中(浦和東警察) ... 早々に先に攻められ2本取られた。悔しい試合になりましたが、いい勉強になったと思います。
- 宮島くん
- ② × 竹中(浦和東警察) ... 体の大きい相手で緊張したのか動きが固かった。いつもの調子が出てなかった。次回ファイト！
- 百木さん
- ② × 猩々(剣真会) ... 自分から攻め積極的に打っていた。一本目は下がり際、二本目は引き面直後に決められていて、二本共に調度相手の打ちやすい場まで下がっていた。下がった際の間合いと、引いてすぐに対応することが必要。でも、初めての試合でよく頑張っていました。

4年生

- 岩田くん
- ② × — 大畑(田島団地) ... 勝ったね！きれいな面でした。次もがんばれ。
- ② コ 柳瀬(古里学園) ... おいしい面があったね。がんばっているのが伝わり見ていてドキドキしました。
- 小澤くん
- ② 判定 能城(沼影) ... 良く攻めて打てていました。なかなかお互いに一本が決まらず、私が見ている、ちょっと相手の攻めの方が、一輝より多く感じたので、判定でダメだったのかも。残念でした。
- 柴田くん
- ② × — 阿部(美園) ... 声も出ていて気合いも十分だった。きれいに面が2本決まった。
- ② 判定 — 横山(中尾) ... お互いになかなか技が決まらなかったが、最後まで攻めていた。声も出ていた。
- ② コ 杉山(沼影) ... 頑張ってたが相手の技が早かった。ベスト16おめでとう！

品田くん

- (メ) 弓削(古里学園) ... 終了間際に面を決められた。
決められず残念だが、よく粘った。

5年生

秋本くん

- 延長 — (メ) 角村(中尾) ... 積極的に攻め、様々な技をよく出していた。特に抜き
胴は何本か打っており、かなりおいしいものがあったが、
延長になり、出小手を打ったところ、面をとられて
しまった。

上岡くん

- (メ)メ 岡村(天翔) ... 前に出て積極的に攻めていたけど、相手が色々な
技で対向してきた。気合いは負けてなかった。

俵くん

- (メ) 梅田(中尾) ... 後ろに下がり気味だったので、もっと自分から前に
出て、積極的に技を見せるようにしよう！
声はよく出していた。

宮島さん

- (メ)コ — 名古谷(中尾) ... もっと積極的に技と声を出そう。
(メ)コ — 道垣内(天翔) ... もっと攻めて打つことを意識しよう。

6年生

竹中くん

浦和剣道連盟強化選手

- (コ) — 山下(一心館) ... 開始早々の小手が見事に決まった！波に乗って
押し気味の良い試合はこびだった。
(メ) — 今村(浦和東警察) ... 面を打つも届かないことがあり惜しい。一回戦目と
比べて少し攻め足りない印象。

飯田くん

浦和剣道連盟強化選手

- (メ)▲ — 延長 小比木(一心館) ... 決め手に欠け、時間が過ぎるなか、場外反則も
取られるが、延長の末一本勝ちすることが出来た。
(メ)メ — 寺田(浦和東警察) ... 積極的に攻め、声も良く出していた。
(メ)メ — 小林(古里学園) ... 攻めの強い相手に、技を出せず。稽古頑張ろう！

飯山くん

浦和剣道連盟強化選手

- (メ) — 山内(剣真会) ... 開始早々綺麗な面が決まった。
延長 — (メ) 氷見(やどかり) ... 慎重に技を出していたが、惜しくも延長の末、面を
取られてしまった。

張くん

- ▲ — (メ) 高野(中尾) ... 相手に押され、下がり気味だった。惜しくも相手に
面を取られたが、良い胴を打っていた。

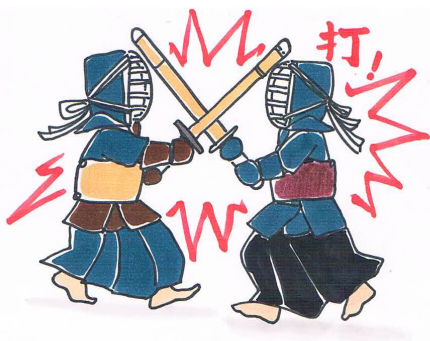
【小学生団体戦 結果】

【Aチーム 第1試合】

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝者数(本数)
駒場 剣友会A	柴田	小澤	飯田	飯山	竹中	0(1)
	(メ)	(メ)				
浦和東 警察署	コ		(コ) (メ)	(▲) (ド)	(メ) (メ)	3(6)
	竹中	武會	竹中	吉野	今村	
コメント	まっすぐな面が見事に決まった。その後、面を多く出すが、少々単調な攻撃になっていた。	落ち着いて相手の攻撃をかわしていた。もっと積極的に攻めよう。	惜しい面がいくつもあった。抜けていく相手を追いかけて攻撃してよかった。	お互いに攻め合いなかなか決まらなかったが、最後に胸を打たれた。残念。	個人戦でも負けた相手。今回は自分の間合いで試合できていた。	

【Bチーム 第1試合】

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝者数(本数)
駒場 剣友会B	宮島(佑)	矢嶋	宮島(英)	廣江(優)	宇野	0(0)
	(メ) (メ)	(メ) (メ)	(メ) (メ)	(メ) (メ)	(メ) (メ)	
田島 剣友会A	栗原	鶴見	西	瀧川	鵜飼	4(8)
コメント	攻めて打っていた。引き胸は惜しかった。	もっと前に攻めて打とう。	声が小さい。もっと気合いを入れて攻めて打とう。	相手が強かった。面は惜しかった。	初太刀の面、引き面は惜しかった。	



【一般団体戦 結果】

一般の部には、錬成部の方々が駒場剣友会Aチーム(男性)と駒場剣友会Bチーム(女性)として参加しました。小学生が試合場のすぐそばで熱視線を送る中、Aチームは見事3位!!おめでとうございます!スコアと熱いコメントの記入は竹中くん、飯田くん、飯山くん、秋本くん、宮島さんが行いました。

【Aチーム 第1試合】

	先鋒	次鋒	中堅	勝者数(本数)
駒場 剣友会A	関口	森	宮島	2(4)
	(ド)コ	(ド)メ		
美園 剣友会B				0(0)
	嶋田	関根	青水	
コメント	声が大きく自分から攻めていて素晴らしいかった。	初太刀から勢いがありとても素晴らしいかった。	声が大きくよかったです。惜しい技がいっぱいあった。	

【Aチーム 第2試合】

	先鋒	次鋒	中堅	勝者数(本数)
駒場 剣友会A	関口	森	宮島	3(5)
	(メ)	(メ)メ	(コ)メ	
北浦和 やどかりA				0(0)
	平沼	平井	藤村	
コメント	とても勢いのあるキレイな面。素晴らしい。	自分のパワーで相手をおしていました。素晴らしい面を打っていました。	自分のペースで落ちついて戦っていた。小手うまい!	

【Aチーム 準決勝】

	先鋒	次鋒	中堅	勝者数(本数)
駒場 剣友会A	関口	森	宮島	1(1)
		(コ)		
田島 剣友会A		▲	(メ)メ	1(2)
	程川	佐藤守	佐藤和	
コメント	気迫でも立ち回りでも勝っていたが一本には届かなかった。	互いに攻め合う中での出小手。とてもキレイだった。	数が少ない左上段との対戦。果敢に攻めるも間合いを取られ、よけられて一本。惜しい!	

【Bチーム 第1試合】

	先鋒	次鋒	中堅	勝者数(本数)
駒場 剣友会B	近藤(千)	小澤	田村	0(0)
	X			
田島 剣友会B	X			2(3)
	峯岸	(ド)メ	(メ)	
コメント	初戦ということもあり、少しかたいように見えた。	詰め寄ってくる相手にも果敢に攻めていた。後半少し引いてしまうところがあった。	すごい気迫だったが相手に一本取られてしまいその勢いで負けてしまった。	

【出場選手 (小学生) 感想】

- 竹中くん 浦和剣道大会に参加させていただき、ありがとうございます。団体戦では、大将として勝つことができず、初戦敗退という悔しい結果になってしまいました。個人戦では、去年負けた相手に勝って強化選手になることができました。駒剣の稽古に加え、強化練習会でたくさん稽古をして勝てるようになりたいです。今回の大会で応援してくださった保護者の方、先生方、ありがとうございました。そして先生方、駒剣のみんな、これからも稽古よろしく願いします。
- 飯田くん 浦和剣道大会に出場させていただき、ありがとうございました。団体戦では、残念ながら、初戦敗退となってしまいました。あっという間に2本とられてしまい、チームの流れを変えることが出来ず、中堅としての役割をはたすことが出来ませんでした。チームをもり上げることも出来ませんでした。やはり、力不足を感じました。個人戦でベスト16にいったことは良かったと思います。もっともっと稽古を頑張りますので、先生方、引き続きご指導お願いします。先生方、保護者の皆様ありがとうございました。
- 飯山くん 今回の大会では個人戦、団体戦共に出場させていただきありがとうございました。個人戦では初めに一本面をとれました。この勢いでもう一本取りたかったのですが、相手の守りがかたく攻めていけませんでしたが、相手の守りがかたく攻めていけませんでしたが、団体戦では、初めて副将をやらせてもらいました。その試合では自分が勝てば大将戦に持ち込めたのですが、応じ技ばかりになってしまって攻めていくことができず、負けてしまいました。次回は、自分から攻めて勝って次につなげられるようにしたいです。
- 宇野くん さいたま市浦和剣道大会に参加させていただき、ありがとうございました。今回の試合で良かった点は、最後まで諦めずに戦うことが出来たところです。反省点は、2つあります。1つ目は、面しか打てなかったこと。2つ目は、一瞬集中力が切れて、よそ見してしまったことです。次の試合はその反省点を踏まえて、稽古を頑張っていきたいと思います。

- 張くん 相手の急な攻めに対応できず、守りに入り自分から攻められませんでした。負けてとても悔しかったです。自分から攻めて行けるよう稽古をがんばります。
- 秋本くん この度は、浦和剣道大会に出させて頂きありがとうございました。あまり自分から攻めることができず、ほとんど相手のペースになってしまい、自分の剣道が思うようにできず、負けてしまいました。返し胴などの技はだせたのですが、打って抜けた後の残心が足りず、一本になる打ちができませんでした。「自分から攻める」ということと、「攻める→打つ→残心」をこの大会の反省点なので、練習して改善していきたいと思います。日頃の稽古を大切に、励んでいきたいと思うので、先生・先輩方、これからもご指導よろしく願います。
- 上岡くん 今回の試合では全力を出せました。試合では勝てませんでしたが、次回は勝てるように努力したいです。
- 俵くん 今回の試合では良い結果は出せませんでした。その敗因は、怖がって後ろに下がってしまったり、あまり自分から攻めたりする事が出来なかったからだと思います。次の試合では、今回学んだ事を活かして、怖がったりせず、積極的に攻めて勝てる剣道をしたいです。
- 廣江さん 私は団体戦Bチームの副将で大会に出させていただきます。今回の試合では、自分から先に攻めることができませんでした。いつもは、自分から先に攻めて技を出していたけれど、緊張してしまってできませんでした。これから稽古で先に攻めて技を出して、一本決まる打ちを身に付けたいです。次に大会に出るときは、練習したことを生かして一本決めて勝ちたいです。
- 宮島さん 今回の試合ではくやしい思いがたくさんありました。1つ目は、個人戦であと一步のところ強化選手になれなかったことです。相手のコテに対して得意の合いコテメンが打てませんでした。2つ目は、団体戦で強い相手に気持ちが負けてしまい、大きな声を出すこと、先にせめて打つことが出来ませんでした。これから次の試合までに、いろいろな技を身に付け試合のつもりで技を出すことを意識して稽古をしたいです。また、どんなに強い相手でも自分から攻めて打てるようにしていきたいです。
- 岩田くん 浦和剣道大会に出場させていただきます。ありがとうございました。今回の大会は、組み合わせの関係もありベスト16になれてうれしかったです。1回戦では、先生方に教えていただいている基本を思い出して面を2本決めることが出来ました。2回戦目は、負けて悔しいというよりは、もっと練習をして強くなりたいと思いました。
- 小澤くん 個人戦で、判定負けしてしまったので、もっと面ばかりではなく、小手や胴でせめていきたいです。団体戦で、引き分けだったのも、もっと攻めていつて勝てれば良いなあと思います。
- 品田くん 試合に出させてくださりありがとうございました。ぼくの結果は1回戦負けでした。ぼくのめあては自分からせめていき、1勝することでした。自分からせめたけど残心ができなかったです。また試合に出られたらがんばりたいです。それまでお稽古をがんばります。

- 柴田くん さいたま市浦和剣道大会に出場させていただきありがとうございました。個人戦では大きな声で自分から攻めることができ、自分の力を発揮することができました。あと1勝でベスト8だったので、次の試合では打ちを早くすることに気をつけて頑張りたいです。団体戦では引き分けてしまい、チームの勢いをつけることができませんでした。これからはもっと集中して稽古をしたいと思います。
- 矢嶋くん 試合に出させていただきありがとうございました。団体戦は初めてでした。負けてしまったけど、試合に出られていい経験になりました。
- 廣江くん 僕は初めて大会に出たからすごく緊張しました。団体戦も出たかったけど、個人戦で2回勝って3位になれたので、とてもうれしかったです。試合が終わった後はつかれましたが、来年は1位をとるぞ、と思いました。
- 宮島くん 今回は、はじめての試合できんちょうしてしまい、大きな声をだすこと、先にせめて打つことができませんでした。こじんせんは、強い相手で二本負けしてしまいました。だんたいせんは、気を入れなおして技を出しましたが引き分けでした。今後のもくひょうは、攻めて打つこと、応じ技を打つことが試合で出せるようになることです。これからもけいこをがんばります。試合に出させていただき、ありがとうございました。
- 百木さん 試合に出させていただきありがとうございました。初めての試合でとても緊張しました。声はいつもより大きく出して頑張りましたが、二本面をとられて負けてしまいました。とてもくやしかったです。たくさん稽古をして、次は勝ちたいです。

【出場選手（成人会員）感想】

- 関口さん この度は大会に出場させて頂きましてありがとうございました。今回は駒剣Aの先鋒として出場し、3位入賞という結果が出せました。小学生の頃からお世話になっている駒場剣友会に少しは恩返しが出来たかなと思っています。しかし、敗戦してしまった準決勝で自分が一本を取る試合が出来れば、決勝戦に進出出来ました。これからは重要な場面で一本を取れるように稽古に励みます。今後とも稽古をお願い致します。
- 森さん 私は「さいたま市浦和剣道大会」一般の部にて、中堅として出場させて頂きました。試合に出る機会を与えて下さりとても感謝しています。今大会にはとても思い入れがあり、再び選手として出場できてとても嬉しかったです。駒場剣友会では、基本に忠実で真っ直ぐな正しい剣道を学ぶことが出来ます。それも、多くの先生方がご指導して下さるおかげです。私自身の剣道の地盤は、今みなさんが通っている道場で成り立っています。まだまだ未熟者ではありますが、今大会で試合をする姿で後輩の皆さんに何かいい影響を与えられていたら光栄です。これからも引き続き精進していきたいと思っておりますので、また稽古よろしくをお願いします。本日は応援ありがとうございました。
- 宮島さん（父） 令和初のさいたま市浦和剣道大会に出場させていただき、ありがとうございました。大将としてはチームの勝利に貢献できませんでした。楽しく3試合を戦わせていただきました。皆さまのご声援のおかげで3位入賞が果たせたと思います。本当にありがとうございました。今後とも、どうぞよろしく願いいたします。

近藤さん 今回は、女子チームでの参加でポジションは先鋒でした。試合の雰囲気を作る重要なポジションなのですが・・・前が出る技が出せず思ったような空気になることが出来ませんでした。試合初参加の中堅の小澤さんは、男性相手に物怖じせず、前が出る技を出していました。見習わなければ!! 田村さんも大将の貴禄バッチリ😊👏でした。
駒剣A、Bチームの方々、稽古していただきありがとうございました。
そろそろ引退かなと思いつつ…また機会があれば…とも思っています😊
その時はまた宜しく願います。

小澤さん (母) 初めての試合、そして初めての団体戦、近藤先生と田村先生に迷惑をかけたくない、そして瞬殺で負けたくない、せめて引き分けに出来れば～と思い、臨んだ試合でした。実際は、無我夢中で終わりとりあえず、瞬殺はまぬがれたかな、なんて思いました。悔しかったけど何だか楽しかったのも、また稽古を頑張っ
て試合に出たいと思います。次は、一本とれるように技など研究していこうと思います。

田村さん この度はBチームで試合に出ささせていただき、ありがとうございました。一番嬉しかったのは、小澤さんがチャレンジして初参加してくれたことです。次に女子でチームを組めたことです。近藤ママさんが引き分けで繋いでくれて、大将の私が2本取れる剣道なら良かったのですが、あまり面で勝負できなくて、申し訳なかったです。これに懲りずに、若いママさん達が試合に出たいなと思ってもらえるまで、頑張りますので、是非、若いママさん剣士の参加希望者をお待ちしております。
Aチーム、3位入賞、おめでとうございました。とてもかっこよかったです。また、自分の弱点を少しでも克服できるように、稽古してまいりたいと思いますので、皆さま、よろしく願います。

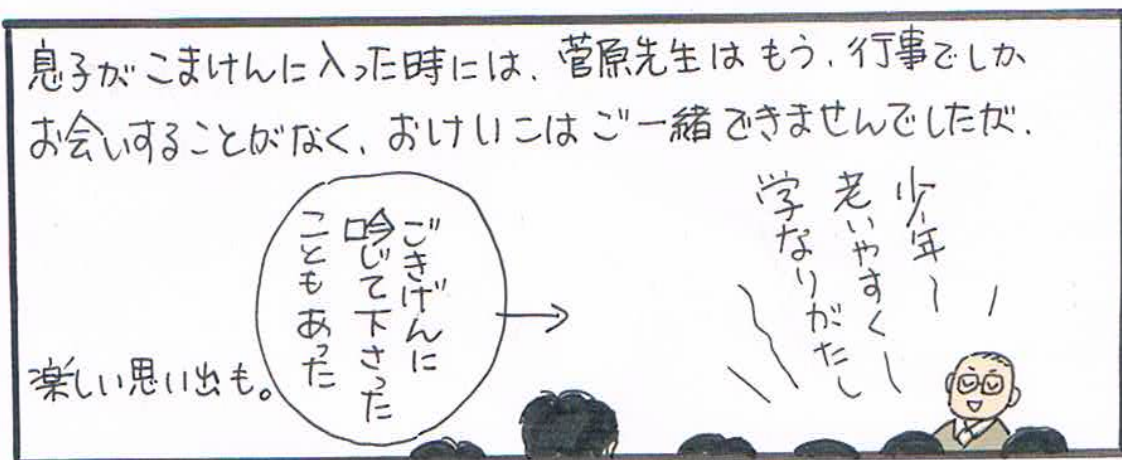
石井のetc日記



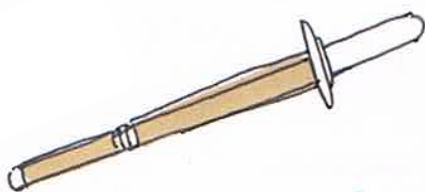
と、[↑] どのような「ダ×ダ×星人」…成人の私ですか

考えたら

この、こまけんをこうしておけいこができるのは、
 (もちろん今の先生方もですが)馬剣をつくって下さった先生方や、
 つないで下さった先生方のおかげなのですね…。 修道館も。



菅原先生、ありがとうございました!!



星やん武芸帳

星やん
ぶったマン

剣道の考え方

どう?
ブーツ



- 剣道では、脈々と伝えていかなければならない、残していかなければならない考え方と。伝統を守っていかなければならないことがある

「さいたま市浦和剣道大会で日本剣道形復活！」

今大会も、浦和剣道連盟主催で行われました。大会準備にて事務局を行いました。いろいろな考え方を。そんな風に？考えるのか？と思える話がたくさんありました。

剣道は、大昔から？剣術として始まり、江戸時代に「活人剣」として昇華してきた日本の伝統ある文化です。そのため、第二次世界大戦後、GHQ に最後まで復活を許されなかった日本人の精神的文化でもあります。

今大会より「日本剣道形」が復活いたしました。星やんが剣道を再開した時に「日本剣道形」を披露してくれていたのが、尾島先生でした。紋付を着てそら〜かっこよかったのと。いつか自分もあんな風に剣道形が打てる剣士になりたいな〜と思ったものです。

日本剣道形は、剣道の基本です。といいながら、大会時間の関係で今までカットされてきたプログラムです。おかしいのです！今回復活には、刃挽きを借りてきて行く。という話が出たとき。借りてきたもので剣道形を打っても伝わらない！といった剣士がおりました。その通り！星やんの時代で、剣道形を復活できたこと、これを続けていこうとすること。スタートできて良かったです。

何度も書いたと思いますが、星やんが剣道で感じていることは。戦後、いろいろと考え方が変化してきましたが、その前。その昔から変えてはいけない所が剣道にはたくさん残っているのです。

正々堂々！1本を目指して！制限時間内いっぱい、1本を取り合う！

時間空費、が反則になったり。



引き分けがカウントされなかったり。（サッカーの様に引き分け勝ち点 1 ではないのです。）
正々堂々とは、正しい道筋の真ん中に行くことです。端っこのグレーに近いところで 1 本を取ること
ではないのです。そして、1 本でも多く取った方が勝ち！

それが剣道なのです。

**そして、剣道の「勝ち負け」はそれまでですが、
そこで終わらない、そこから始まることがたくさんあるのも剣道なのです。**

「 打って反省。打たれて感謝！ 」の世界

- ① 剣道では、「効率」をあまり考えてはいけません。基本を徹底的にやり抜かないと出来上がってこない。基本とは長く先人が繰り返し、繰り返して作り上げてきてくれたもの。基本の上に積み上げていくのではなく、基本を厚く自分の物にしていくこと。
先人の作り上げてきた基本を、繰り返して繰り返す。行う事が楽しいのです。
- ② 剣道では、自分の事ばかりに時間を使っているはいけません。他人のために 24 時間のうち、どれだけ親身に使う事ができるか。出来る人になれるか。
- ③ 剣道は、たくさんの矛盾の中にあって、強いだけでなく、柔らかく。早いだけでなく、正確に。攻めていながら守っていて。たくさん！たくさん。
- ④ 剣道の 1 本有効打突は、五つの要素！五つの要件！があるものと、記載されていますが、お相手を斬ることが出来たかどうか？判断基準だと星やんは思う。
- ⑤ 剣道は、「正しい」をいつも考え、それを体にも、心にも、お相手に対しても持っていなければならない。「正剣こそ最強！」（廣江先生 談）

こうして書いていると、剣道は本当に難しい。でも、みんなと一緒に死ぬまで出来るということ。だから楽しい。だからうれしい。だから頑張れる！ さあ～～精進しよう！

第二次世界大戦で敗戦国となった日本が、諸外国からの新しい文化を取り入れるのに、「むかしからの事は悪いこと」という簡単な方程式に当てはめてきてしまった。今の日本。置き忘れてきたこと、大切にしなければならないことを、ないがしろにしてきたのではありませんか？
という悩みがいつも、いつもありました。そんな戦後世代の星やんに日本人の考え方を教えてくれたのが昭和の剣士。先生方なのです。

いま、聞きたいことがたくさんあります。こういう時は？どう考えるのですか？と先生に聞きたい。

寿剣慶道清信士

かかり稽古をネッ
トゥーン・トゥーンとね
何度も往復できなければ
ダメなんだよね。



昭和5年11月生まれの会津武士が、駒場剣友会にたくさんの贈り物を残して逝ってしまいました。

家族葬という事で本荘会長と星やんでお見送りをしてきました。

お通夜式に、菅原先生から五段昇段御祝いに頂戴した、横川武道具店の最高級お道具。二重亀甲刺し、漆塗りの中に浮かぶ银杏模様。朱胴。

先生のおそばに、置いてほしくて、飾ってほしくて、お持ちしました。セレモニーの方にマネキンを用意してもらい、先生のお道具を飾付けているとき、おおいに泣けてきた。涙が止まらなかった。

「先生！菅原先生！先生！」と何度も何度も呼び続けながら紐を結んだ。

剣士の旅立ちはお道具が似合いすぎて、そこに、立っているようで。

「はい、切り返し。はい、打ち込み。少し、掛かり稽古をやりましょう！」と、聞こえてきた。

これから駒剣での
お稽古は先生の
お道具でやりますよ

着け終わってみれば、竹刀もなく、着ける主を失ったお道具達ではあるが、ちゃんと菅原慶一教士七段正眼の構えを写し出していた。袴も穿いていないのに足さばきが見えた。竹刀はなくとも剣先がセキレイの尾羽のごとく攻めていた。

「おお〜っ！1本お願いします！」と面の中を注視すれば、先生が少し微笑んだように見えた。

遺影は、晩年大好きだったカラオケを唄う先生のお姿。棺の中の先生は剣道着、袴を着けていらした。

鼻筋の通った紅顔の美少年を想う。優しい若武者。白虎隊を偲ぶ顔が目を閉じていた。

最後のお別れは、溢れるくらい、本当にたくさんの花に囲まれ、胸のところには、駒剣便りと、駒剣のアルバムを持って逝かれてしまった。

先生！菅原先生！ありがとうございました。ありがとうございました。僕の剣道の中にたくさんのプレゼントを残してくださいました。そしてそれは僕の中で「宿題」として残りました。

どうやって、伝えていくのか。どう残していくのか。頭の中が破裂しそうである。山崎正隆ミスター駒剣師範からの弔電が流れ、石田恵介剣友のお悔やみ電報が流れる中。静かに、静かに棺は閉ざされた。

棺を手送りで持ち上げたとき、先生はずしりと重かった。まだまだたくさんの事が体中に満ちている重さと感じた。先生！ともう一度抱き起したい衝動を抑え、また涙がどんでんできた。

今日は、我が家の車に先生をお乗せして帰れませんね。「いや〜世話になっちゃって、楽しくて、ま〜、飲みすぎちゃったよ。悪いね〜」といいながら、大きな車に横になっていってしまいました。17号を埼玉大学方面に走っていった。坂の上、見えなくなるまで見送りました。駒剣OB、錬成部。みんなの分見えなくなるまで送ってきました。想いでは書ききれない。あえて、昭和の会津武士の旅立ちを記しました。合掌。